
GLAYV ~ 勇気ある少年の物語 ~

今林 真太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

GLAYV〜勇気ある少年の物語〜

【Nコード】

N4707Q

【作者名】

今林 真太

【あらすじ】

ここは計15個の小中高大学校が組合わさってできた都市「学都」。
ここには、ある細胞を持った生徒しか入ることが出来ない。その細胞を持つ生徒はグレイブという特殊な能力を持つことが出来るのである。そしてこれは、一人の少年、伊田 真都がある能力を持ったせいで様々な事件に巻き込まれていく話である。

第一学・とある日常生活

「あー、暇だ」

俺はベットの上でそう叫んだ。

グレイスタウン

この俺、伊田真時はこの学都で生活をしているいたって普通の中学生だ。グレードは最低のC。(グレードとはその人間が持っている能力のつよさのようなものだ。上からSS↓S↓A↓B↓Cという感じだ)その上グレイブ自体所持していない一般的な中学生である(グレイブとは一人一人が持つ特殊な能力のことである。例えば、<水のグレイブ>であれば水を多彩に操ることが出来る)

「俺にもグレイブ使えばなあ」

と俺はため息をつく。

プルルルル、プルルルル!!

電話が部屋に鳴り響く。

「はい、もしもし」

「真都ー!!! おめえ!!!」

この声は同じクラスメートの東公太だ。

「えっ？」

俺にはなぜこいつが怒ってるのか解らない。

「今日の補修忘れたのかあ！」

「あつ! それ今日だったの? ごめん忘れてたわ」

「早く来いよ! 先生怒ってんぞ」

ピッ。

そう、今日はグレードCの学生の補修の日。

この学都には俺と東を含めて13人いるらしい。

俺は学ランとバックを準備して出かけた。

そう、この日の出来事がこれからの人生を変える事を知らずに……

……

「あれがグレードCの学生か」

1人の男がそう呟いた。

俺は普通通りの道を通り学校に向かった。

「おいおい兄ちゃんちよつと俺たちと遊ばない？」

こういうわけのわからないヤンキー達はもう慣れた。

「いや、ちよつと今から学校なのですみませうん」

その瞬間俺は全速力で走り逃げる！

走り過ぎたせいか、息が荒い。

「ここまでくれば……」

「オラ、待て！」

後ろからさっきのヤンキー達が走ってくる。

流石に運動神経万能の俺様には勝てないが。

「おい。ヤンキーどもまたな」

俺はそう叫んで学校へ向かった。

その時、背後に何者かの気配を感じた

「うん？ 何だ？」

俺は立ち止まった。

目の前には俺とそんなに変わらないくらいの背の学生が立っていた。

「閃のグレイブ」

男はそう呟いた。

（こいつ能力者！）

その瞬間俺の体には何か硬い物が突き刺さるような感じと同時に吹き飛ばされた。

「グハッ！ ……てめえ、何しやがるんだ！」

「ふん、お前らみたいなグレードがCの奴らを倒すだけでこんなに金がもらえるなんてよ」

男は笑ながらそう言った。

「何だつて！」

「まさかお前知らなかったの？ お前らグレードCの奴らは処分されるんだよ」

そいつは持っていた紙を俺に投げ飛ばしてまた能力発動の構えを取

った。

「じゃあな、雑魚！」

一閃の光が俺に向かって飛んでくる。

「くそ、俺終わるのか？」

俺は反射的に右の腕が動いた。

「片手一本で止められるか？ アホが！」

閃光が手にぶつかり消えた。

「俺生きてる」

俺は気がつくとも奴の槍のような攻撃を防いでいた。

「俺にもグレイブが」

その嬉しさのあまり笑顔がこぼれてしまった。

「ふん、こんな土壇場で誕生したグレイブなんて、ただの道具にすぎねえ（しかし、俺の攻撃を止めたのは意外だった）」

そうすると男はもう一度グレイブの構えを取った。

「マグレがそう何度も続くかな？」

俺はさつきと同じように右腕を前に出した。その瞬間何かが纏った気がした。

「一度出来たならもう一度できるはずだ。ハァー」

またその攻撃を俺は防いでいた。

「まさか、俺のグレイブが防がれるなんて。そんなバカな、俺は仮にもグレードAだぞ！」

男は焦りだした。

「お前はグレードAかもしれないが俺にとっちゃあ、ただの人間だ。これでもくらえ」

俺は右手で男をぶん殴った。

「グハッ！」

男は何メートルほど飛ばされただろうか。

「コレが俺のグレイブ……」

俺は男に近づき言った。

「さつき言っていた、グレードCの排除何やらについて言え！」

男は怯えるように答えた。

「ハアハア、そんなこと教える訳ねえだろ。バーカ」

俺は男の首スレスレの壁を殴った。

大きな音が響くとともに壁にヒビがはいる。

「ヒイツ！わかった、わかったからやめてくれ」

「そうか、じゃあ喋ろ！」

「ああ、わかった。その事を知ったのはパソコンでだ。そのサイトにはこう書いてあった。

ードC排除指令」

くグレ

・今からグレードCを排除します。

・僕は本気です。

・倒したら、その写メか写真を送ってください。

・それが事実だと分かればその者に10万Gak与える。

俺も最初ありえねえ話だと思った。でも、実際に金を貰ったって奴がいたんだよ。だから、俺も金が欲しくなってお前を狙ったて訳だ」
男は一言一言を真剣に話した。

どうやらこいつの言っている事はリアルらしい。

「なるほどな、でも、その金を貰ったていうのは嘘だな」

男はビツクリした表情で俺の方を向いた。

「なぜわかる？」

俺は一度笑い、言った。

「だって、今日はグレードCの補修だぜ。この学都には全部で俺を含めて13人しかいない。しかもそれ全員は補修にちゃんと来ている。遅れたのは俺だけだ」

男はガツクリした表情で立ち上がり、「そうか、俺は騙されたのか。すまなかった俺の勘違いでお前を巻き込んでしまい」

俺は奴も悪気があつてした事ではない事を知ると安心した。

そして俺は学校に向かった。

そして学校にて…

「真都何でこんなに遅かった？」

東は怒っている。

「いやいややる途中にカクカクシカジカ……」

東は納得いかないような顔をしながらも頷いていた。

そして、ドアを開けて先生が入ってきた。

「はい、次の授業始めます。おつ、伊田やつと来たかお前補修＋居残りな！」

「マジで？」

この人は俺の担任の尾田村先生。

結構熱血的だが、まあいい先生だ。

でも、少し居残りというのは納得いかない。

そして6時間後……

俺はこの能力について先生に聞いた。

「先生これってグレイブですね？」

「まあ、グレイブといっちゃあグレイブだが。珍しいタイプだな？
ちよつと測ってみよう」

俺はしぶしぶ能力検査機に入った。

そして何分か経ち…

「結果はグレードCのまま。能力もグレイブのようだが詳しい事は
出なかった」

「えーーーーー！それって俺が普通じゃ無いって事ですか？ね
え！」

俺は正直ビックリした。こんなの熱が40度あるのに医者に「大丈夫
です。」と言われたみたいだなモンじゃねえか！

「ハッハッ、そうおどろくな。でも、お前の話からすると、それは
「抵抗」だろう。簡単にいうとガードみたいな物だ。お前が右腕を
出した時に何かを纏ったと言ったな？多分それはそのグレイブの正

体だろう。それが腕から噴射するように出て相手のグレイブを弾き返したか、中和し消えたんだろう」

俺は最初言っている意味がわからなかったが、だんだんわかった。

その後先生の話だと俺の能力には3つの使い道があるという。

1つは先ほど言った、気を噴射して弾き返す、「テンション・リバース気」の抵抗。

もう1つは、気を纏うことで自分自身の能力を活性化させる、「テンション・バースト気」の波動。

3つ目は、気を物体化させ剣ややりに変える、「テンション・メスト気」の造出。

どうやら、使いようによっては最強になるらしい。

俺はもしかしたら凄い物を手に入れてしまったかもしれない。

「でも、これも運命だ」

そう、俺はここから始まる悪夢の連続に築く事も無かった。

つづく

第一学・とある日常生活（後書き）

第一話を読んでくださった方々ありがとうございます。

今林 真太です。

この話はA m e b aブログの方で書かせてもらっていたものです。
現在も更新中！！

まだまだ、へなちょこな話ですけどよろしく願います。
次回、ご期待！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4707q/>

GLAYV ~ 勇気ある少年の物語 ~

2011年10月8日15時33分発行